

信州大学麻酔科専門研修プログラム

(大都市圏あるいは大学のモデルプログラム)

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。また多職種による専攻医評価とフィードバックを計画している。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 小児麻酔，集中治療，ペインクリニック・緩和医療を3か月間ずつ研修する。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B），ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C），集中治療

を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児）	C（ペイン）	D（集中治療）
初年度 前期	本院	本院	本院	本院
初年度 後期	本院	本院	本院	本院
2年度 前期	本院 こども病院	本院	本院 こども病院	本院 こども病院
2年度 後期	本院 （集中治療）	本院 （集中治療）	関連施設	関連施設
3年度 前期	関連施設	こども病院	関連施設	関連施設
3年度 後期	関連施設	こども病院	市本院（+ペイン・緩和研修）	本院 （集中治療）
4年度 前期	本院（+ペイン・緩和研修）	本院（+ペイン・緩和研修）	本院 （集中治療）	本院（+ペイン・緩和研修）
4年度 後期	本院	本院	本院	本院

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

研修実施責任者：川真田樹人

専門研修指導医：川真田樹人（麻酔、ペインクリニック）

間宮敬子（緩和医療、ペインクリニック）

田中 聡（麻酔、ペインクリニック）

石田高志（麻酔、心臓血管外科麻酔）

杉山由紀（麻酔、集中治療）

清水彩里（麻酔、集中治療）

布施谷仁志（麻酔、ペインクリニック）

石田公美子（麻酔）

浦澤方聡（麻酔）

平林高暢（麻酔）

伊藤真理子（麻酔）

吉山勇樹（麻酔、ペインクリニック）

専門医：渡邊奈津子（麻酔）

丸山友紀（麻酔、心臓血管外科麻酔）

山田友克（麻酔）

松井周平（麻酔）

小川麻理恵（麻酔）

中村博之（麻酔）

麻酔科認定施設番号：31

特徴：集中治療、ペインクリニック、緩和医療のローテーション可能

Awake surgeryの麻酔、肝移植の麻酔などを修練可能。胸部大血管手術における神経機能モニタリングなどを行っている。

② 専門研修連携施設A

長野市民病院

研修実施責任者：成田昌広

専門研修指導医：成田昌広（麻酔）

川上勝弘（麻酔、小児麻酔）

高野岳大（麻酔）

北川原康子（麻酔）

専門医：國本史子（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：785

特徴：地域の中核総合病院. がん診療を重視.

北信総合病院

研修実施責任者：菱沼典正

専門研修指導医：菱沼典正（麻酔、心臓麻酔）

馬場浩介（麻酔、緩和ケア、ペインクリニック）

城下裕子（麻酔）

安藤 晃（麻酔）

認定病院番号：291

特徴：地域の中核総合病院. 地域がん診療病院. 希望者は緩和ケアチームへの参加可能.

長野県立信州医療センター

研修実施責任者：清水俊行

専門研修指導医：清水俊行（麻酔、東洋医学）

内田治男（麻酔）

認定病院番号：963

特徴：地域の中核的病院 外来は週4日（ペインクリニック、漢方専門外来）

長野松代総合病院

研修実施責任者：鬼頭 剛

専門研修指導医：鬼頭 剛（麻酔・ペインクリニック）

水戸野裕之（麻酔・小児麻酔）

伊藤真騎（麻酔）

認定病院番号：683

特徴：北信地区の中堅病院、ペインクリニックはローテーション可.

南長野医療センター 篠ノ井総合病院

研修実施責任者：中島浩一

専門研修指導医：中島浩一（麻酔）

笠間美穂（麻酔）

田中秀典（麻酔、心臓血管麻酔）

今井典子（麻酔）

専門医：新井成明（麻酔、心臓血管麻酔）

認定病院番号：639

特徴：地域の中核総合病院.

安曇野赤十字病院

研修実施責任者：雄山瑞巖

専門研修指導医：雄山瑞巖（麻酔、ペインクリニック）

坪川和範（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：658

特徴：地域の中核総合病院、地域医療支援病院.

まつもと医療センター

研修実施責任者：新倉久美子

専門研修指導医：井上泰朗（麻酔、集中治療、緩和医療）

新倉久美子（麻酔、集中治療）

認定病院番号：312

特徴：がん診療中核病院、呼吸器外科・心疾患基幹病院、神経難病センター、重症心身障害者医療、エイズ拠点病院、地域医療支援病院.

周術期麻酔管理および急性期から慢性期の幅広い重症患者の集中治療を学ぶことができる.

相澤病院

研修実施責任者：小笠原隆行

専門研修指導医：小笠原隆行（麻酔）

坂口秀弘（麻酔）

丹下大祐（麻酔）

井門千聡（麻酔）

認定病院番号：860

特徴：地域の中核総合病院. 小児を除けば各診療科の手術で豊富な麻酔経験が可能.

諏訪赤十字病院

研修実施責任者：池野重雄

専門研修指導医：池野重雄（麻酔、ペインクリニック）

横田 茂（麻酔）

土橋哲也（麻酔、心臓血管麻酔）

坂本明之（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

認定病院番号：590

特徴：地域の中核病院. ペインクリニックのローテーション可能、緩和ケアチームへの参加可能.

伊那中央病院

研修実施責任者：笹尾潤一

専門研修指導医：笹尾潤一（麻酔、ペインクリニック）

篠原顕治（麻酔、ペインクリニック）
白鳥 徹（麻酔、集中治療）
専門医：木内千暁（麻酔）
田中竜介（麻酔）
村上 徹（麻酔、心臓血管麻酔）

認定病院番号：637

特徴：地域の中核総合病院、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院。

丸の内病院

研修実施責任者：安藤尚美
専門研修指導医：安藤尚美（麻酔）
加藤幹芳（麻酔）
専門医：村上育子（麻酔）

認定病院番号：1536

特徴：整形外科の症例が豊富。他、産婦人科、外科が多い。

京都府立医科大学附属病院

研修プログラム統括責任者：佐和貞治
専門研修指導医：佐和貞治（麻酔）
橋本 悟（集中治療）
天谷文昌（ペインクリニック・緩和医療）
上野博司（ペインクリニック・緩和医療）
溝部俊樹（麻酔）
柴崎雅志（麻酔）
小川 覚（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
石井祥代（麻酔）
山崎正記（麻酔・集中治療）
飯田 淳（麻酔）
早瀬一馬（麻酔・集中治療）
木下真央（麻酔）
山北 俊介（麻酔）
山下理比路（麻酔・集中治療）
堀井靖彦（麻酔）
専門医：井上敬太（麻酔）
井上美帆（麻酔・集中治療）

山田知見（麻醉）

山下早希（麻醉）

認定病院番号：18

特徴：集中治療、ペインクリニックのローテーション可能

和歌山県立医科大学附属病院

研修実施責任者：川股知之

専門研修指導医：川股知之（麻醉、ペインクリニック、緩和医療）

水本一弘（麻醉、集中治療、ペインクリニック）

栗山俊之（麻醉、ペインクリニック、緩和医療）

時永泰行（麻醉）

山崎亮典（麻醉、区域麻醉）

藤井啓介（麻醉、区域麻醉、心臓血管外科麻醉）

樋口美沙子（麻醉）

谷奥 匡（麻醉、神経麻醉）

平井亜葵（麻醉）

吉田朱里（麻醉、小児麻醉、心臓血管外科麻醉）

専門医：若林美帆（麻醉、集中治療）

神田佳典（麻醉）

荒谷優一（麻醉）

古梅 香（麻醉、集中治療）

丸山智之（麻醉、ペインクリニック）

山崎景子（麻醉、集中治療）

西畑雅由（麻醉）

山本香寿美（麻醉）

認定病院番号：40

特徴：ペインクリニック、緩和医療、集中治療のローテーション可能。

国立循環器病研究センター

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦（心臓麻醉、経食道心エコー）

吉谷健司（神経麻醉、脳脊髄機能モニタリング）

金澤裕子（心臓麻醉、低侵襲モニタ）

南 公人（心臓麻醉、集中治療、心エコー）

前田琢磨（心臓麻醉）

専門医：下川 亮（心臓麻醉）

中野雄介（心臓麻酔）
堀田直志（心臓麻酔）
佐藤仁信（集中治療）
加澤昌広（集中治療）
森永将裕
三浦真之介

認定病院番号：168

特徴：心臓大血管手術の症例数が多いことが特徴です。2018年は1208症例の心臓大血管手術症例がありました。弁手術はダビンチロボット手術による僧帽弁形成術、小切開大動脈弁置換術、人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術など低侵襲手術が増加しています。反対に重症心不全に対する左室補助装置装着術や心臓移植術、大動脈解離に対する緊急弓部グラフト置換術などリスクの高い症例も多くあります。カテーテル治療としてハイブリッド手術室でカテーテル大動脈弁置換術や僧帽弁形成術、大動脈ステント留置術が多く施行されています。脳血管外科手術症例、産科症例も多く施行されています。小児心臓手術や新生児姑息術も多く施行されています。

③ 専門研修連携施設B

長野赤十字病院

研修実施責任者：井出 進
専門研修指導医：井出 進（麻酔、心臓血管麻酔）
田中稔幸（麻酔）
黒岩香里（麻酔）
専門医：中澤 遥（麻酔、心臓血管麻酔）
清澤研吉（麻酔）
若林 諒（麻酔、心臓血管麻酔）

認定病院番号：438

特徴：地域の中核総合病院。外科系各診療科の麻酔を経験できる。心臓血管麻酔専門医認定施設。

浅間南麓こもろ医療センター

研修実施責任者：田中幸一
専門研修指導医：田中幸一（麻酔）

認定病院番号：664

特徴：訪問診療に力を入れている。

長野中央病院

研修実施責任者：中村達弥

専門研修指導医：中村達弥（麻酔、集中治療）

認定病院番号：1037

特徴：地域に根ざした病院.

信州上田医療センター

研修実施責任者：望月憲招

専門研修指導医：望月憲招（麻酔）

大田恵理子（麻酔）

専門医：中澤真奈（麻酔）

認定病院番号：1618

特徴：地域医療支援病院.

松本市立病院

研修実施責任者：小林幹夫

専門研修指導医：小林幹夫（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：1447

特徴：松本平西部地区の基幹病院. 産科から老年麻酔まで幅広い年齢層の麻酔を担当.

昭和伊南総合病院

研修実施責任者：大房幸浩

専門研修指導医：大房幸浩（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：923

特徴：長野県南部に位置し地域医療の中心を担う病院である. 特に消化器病センターにおける内視鏡検査症例数は2万例を誇るため、多くの消化器病手術を経験できる.

長野県立木曽病院

研修実施責任者：柴田達彦

専門研修指導医：柴田達彦（麻酔）

認定病院番号：1680

特徴：地域がん診療病院.

北アルプス医療センターあづみ病院

研修実施責任者：新倉明和
専門研修指導医：小林浩一（麻酔、ペインクリニック）
専門医：新倉明和（麻酔）
田中成明（麻酔）

認定病院番号：1217

特徴：地域の中核総合病院、希望により緩和ケアチームへの参加可能。

長野県立こども病院

研修実施責任者：市野 隆
専門研修指導医：市野 隆（麻酔、小児麻酔）

認定病院番号：666

特徴：小児専門病院、小児麻酔・先天性心疾患麻酔の研修可能。

杏林大学医学部付属病院

研修実施責任者：萬 知子
専門研修指導医：萬 知子（手術麻酔全般・医療安全）
鎮西美栄子（緩和医療）
徳嶺讓芳（手術麻酔全般・医療安全）
森山 潔（集中治療）
関 博志（手術麻酔全般・周術期管理）
中澤春政（心臓麻酔・術後鎮痛）
鵜澤康二（手術麻酔全般）
小谷真理子（集中治療）
小澤真紀（手術麻酔全般）
田口敦子（小児麻酔）
神山智幾（集中治療）
本保 晃（周術期管理・産科麻酔）
箱根雅子（小児麻酔・産科麻酔）
専門医：竹内徳子（手術麻酔全般）
安藤直朗（手術麻酔全般）
朽名佳代子（手術麻酔全般）
辻 大介（心臓麻酔）
田淵沙織（小児麻酔）
和田 望（手術麻酔全般）

認定病院番号 147

特徴：年間 7,000 件麻酔科管理症例があり，麻酔科専門医として必要な手術症例を偏りなく経験できる．ロボット補助下手術や循環器疾患の血管内治療など先進医療の麻酔管理を経験することができる．

埼玉医科大学総合医療センター

研修統括責任者：小山 薫

専門研修指導医：小山 薫（麻酔，集中治療）

照井克生（麻酔，産科麻酔）

鈴木俊成（麻酔，区域麻酔）

清水健次（麻酔，ペインクリニック）

田村和美（麻酔，産科麻酔）

山家陽児（麻酔，ペインクリニック）

加藤崇央（麻酔，集中治療）

田澤和雅（麻酔）

加藤 梓（麻酔，産科麻酔）

結城由香子（麻酔）

北岡良樹（麻酔）

金子恒樹（麻酔，産科麻酔）

成田優子（麻酔，産科麻酔）

松田祐典（麻酔，産科麻酔）

佐々木華子（麻酔）

専門医：原口靖比古（麻酔）

菊池佳奈（麻酔）

杉本真由（麻酔，ペインクリニック）

中野由惟（麻酔，産科麻酔）

伊野田絢子（麻酔，集中治療）

高橋綾子（麻酔）

金子友美（麻酔）

肥塚幸太郎（麻酔，産科麻酔）

坂本尚子（麻酔）

岡田 啓（麻酔）

認定病院番号：390

特徴：県内唯一の総合周産期母子医療センターかつ高度救急救命センターでドクターヘリが設置されている．急性期医療に特化した麻酔管理のみならず，独立診療体制の産科麻酔，ペイン，集中治療のローテーションが可能で，手術室麻酔のみならずオールラウンドな麻酔科医を目指すことができる．

聖路加国際病院

研修実施責任者：阿部世紀

専門研修指導医：阿部世紀（麻酔、小児麻酔）

藤田信子（麻酔、心臓麻酔、産科麻酔）

林 督人（麻酔、区域麻酔、産科麻酔）

佐久間麻里（麻酔、救急）

林 怜史（麻酔、心臓麻酔）

篠田麻衣子（麻酔、区域麻酔、ペインクリニック）

菅波 梓（麻酔、産科麻酔）

早坂知子（麻酔）

専門医：小山杏奈（麻酔、区域麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）

金子拓人（麻酔、心臓麻酔）

山口慧太郎（麻酔、ペインクリニック）

井上真由子（麻酔、心臓麻酔）

認定病院番号：249

特徴：当院の手術室は14室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、産科麻酔、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Da Vinci手術など）も含めた幅広い症例が経験できる。更に麻酔科専門医受験資格に必要な症例も当院のみで経験可能である。挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できる。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる。

東京歯科大学市川総合病院

研修プログラム統括責任者：大内貴志

専門研修指導医：大内貴志（麻酔）

小坂橋俊哉（麻酔、緩和ケア・ペインクリニック）

印南靖志（麻酔、集中治療）

伊東真吾（麻酔）

認定病院番号：688

特徴：東京歯科大学市川総合病院麻酔科専門医研修プログラムの基本方針は、最終到達目標を無理なく達成できるようにすることにあり、専攻医ひとりひとりに合わせながらプログラムを調整して行く。研修1年目は、専門研修指導医によるマンツーマン指導下で研修を行う。当施設では、基本的に指導医間に麻酔方針に大きな差がないことも特徴であり、

専攻医のストレス軽減の一助となっていると考える。2年目以降は、自主性を重視しながらも、専門研修指導医、麻酔科専門医によるスーパーバイズを受けられる体制下で研修を行う。3年目以降は、専門研修指導医と共に初期研修医の指導を経験できるようにする。希望者は、集中治療および緩和ケア研修を並行して行うことが可能である。

本プログラムでは将来の専門医受験資格に列記されている小児、帝王切開術、心臓血管手術、胸部外科手術、脳神経外科手術の麻酔症例のみならず、幅広い麻酔症例を経験できる。歯科大学の附属病院である当院の特徴の一つに、年間390例を超える口腔外科症例があり、経鼻挿管や経鼻気管支ファイバー挿管の経験を積むことが可能である。

また、研修内容としては臨床経験を積むことが中心であるが、国内や海外での学会発表や臨床研究などの学術面にも力を入れた指導を行い、将来の指導者を養成して行く。

当院は忙しいものの、専攻医として十分な休養がとれるような配慮も行っている。具体的には、オンコール日の夜間勤務状況に応じてその翌日の勤務を免除するシステムや、不定期ではあるもののリフレッシュ休暇などである。また、院内保育園を有しており、女性医師が専攻医としてキャリアを積むことが可能である。

三重大学医学部附属病院

研修実施責任者：宮部雅幸

専門研修指導医：丸山一男（集中治療、ペインクリニック）

宮部雅幸（麻酔）

横地 歩（ペインクリニック）

松原貴子（緩和ケア）

川本英嗣（麻酔、救急医療）

坂倉庸介（麻酔）

専門医：坂本 正（ペインクリニック）

認定病院番号：163

特徴：専門医取得に必要な症例が豊富に揃っていることはもちろん、移植外科、心臓外科、小児外科、循環器内科、ダヴィンチ手術などの高度医療の手技も身につけることができる。神経ブロック、漢方診療、緩和ケア、救急、集中治療の研修も経験可能。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、信州大学麻酔科website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

信州大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科 石田 高志 (統括医長)

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 信州大学医学部麻酔蘇生学教室

TEL 0263-37-2670

E-mail tisd@shinshu-u.ac.jp

Website <http://www.shinshu-masui.jp/>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果 (アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム

管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用

いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。

- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。

研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を超えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。

- 2年を超えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院、長野県立こども病院、国立循環器病センターなど幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。